

JL育成について感じること

プーさんの取材で南足柄市青少年指導員のJL育成担当の方に、ジュニアリーダー育成について、ざっくばらんにお話していただきました。

プーさん: JLに望むことって何でしょうね。

- A:** 理想を言えば自分たち（JL）がやりたいことをやってくれることです。それは例えば子ども会や学校行事などあるいは自分たちがやりたいことを自分たちで見つけて自分たちで運営していってくれるのが理想です。
- B:** 現在はまだそれができていないので、大人の側がつい手を出してしまいます。JLができることまで手を出してしまいます。大人の方が不安で、子どもたちに任せてもいいとは思っていても、つつい手も口も出てしまうのです。子どもたちを自立させるためには私たちもやり方を考え直していかなければならないと思います。そんな中で子どもたちを見守りながら試行錯誤して検討している最中です。
- C:** もう少し成長してほしいと思って始めたのが、大井町JLCとの交流会です。交流会でいろんなことを体験してJLの成長を促したいと思っています。実際子どもたちは刺激され成長していると思います。

プーさん: JLとどう関わったらよいと思いますか？

- A:** 大人がJL個々の資質を見抜いて、それぞれ適材適所で活躍してもらおうとしています。すべてがうまくいっているわけではありません。部活や受験勉強さらにバイトがあったりして高校生も忙しいですね。活動に参加する高校生に限られてしまいます。やる気がないわけではないのですが日程が決まっています、出てこれない場合が多いようです。
- B:** 活動については、理想としてはJLが発案して計画して行って、それを大人がフォローし二言三言のアドバイスで進んでいけることです。
- C:** JL自身が考え動いていけるようにサポートしたいですね。
- D:** 会議の進め方や中身を自分たちで考え進める中で、JLでできないことを大人がサポートしたいです。例えば大人が地域の大人と交渉し話をした方がスムーズに進む場合などです。

プーさん: JLと関わることで何か得られることはありますか？

- A:** 若い人と関わっていると、何よりも楽しいですね。自分が若く元気でいられます。
- B:** 彼らが暮らしている街を好きになってくれるといいな、と思っています。大人になってもこの街に住み続けてくれることを期待しています。



大人
↑ ↓
JL
↓



J L ↕ 大人

JLから大人へメッセージ

平塚市JLCに取材したときのJLの生の声です。

- ・信頼してほしい。
- ・やってもらいたいこともあります。基本は見守ってほしい。限度を超えたら支えてほしい。
- ・「やってみな」という父性的な部分を持ってほしいです。
- ・自分たちでこうやろうと思っていたところに、急に無茶ぶりでああやれこうやれとかということもあります。前もって言ってくれないとできないということもあります。SLとか青少年課職員は活動についてわかっているのです。そういうことはありません。
- ・自分たちがどこまで仕切っているのか、大人達がどこまで仕切ることが分からないときがあります。忙しかったりして打ち合わせする暇がありません。

キャンプに参加していた大人の声

座間市ジュニアリーダー野外研修会に参加されていた大人の方たちの生の声です。

- ・キャンプではJLが前面に出てやっています。彼らがいないと立ち行かないですね。
- ・JLについて、まだ安心して見ていられるところまでは至っていませんが、できるだけ口を出さないようにしています。
- ・野外炊事などで「子どもができない」「JLもできない」という場合に「大人が手を出す」そうすると「JLも子どもも自分でできるようにならない」という悪循環に陥ります。大人は手を出さないようにしたいが、役員の中には手を出してしまう人がいます。



育成ガイド 目次

よくある疑問に答えます。

JLとの関わり方

・・・17・18ページ

JL活動・JL育成活動の魅力

・・・19・20ページ

JL同士の関係

・・・23・24ページ

JLと保護者の関係

・・・26ページ

活動上の問題点

・・・27・28・29ページ

会員の確保について

・・・31・32ページ

JLとのコミュニケーションに

役立ちます。

(若者言葉4コマ劇場)

・・・21・22ページ

活動プログラム作成に

役立ちます。

・・・25・30・33ページ

他地域のJLとの交流に

役立ちます。

(JLC・SLC連絡先)

・・・34～38ページ





大人はJLにどのように 関わればよいのでしょうか？



最初に大事なことといえば、やっぱり名前を覚えてあげることですね。すぐには覚えられなくても覚える努力をしてほしいですね。そして自分の名前を覚えてもらうことも大切です。JLとの距離感ですが、友だち感覚にはならない方がいいと思います。やはり大人として一線を引いてつきあってほしいと思います。ケータイアドレスも教えるのはどうかと思います。緊急連絡等で必要があれば、代表とだけは番号、アドレスを交換しても良いと思います。活動の場面や会議ではできるだけ見守り、必要なときには、手取り足取りのヘルプでなく、大人にしかできないサポートをしてあげることが重要です。



プーさん

大人と子ども、ましてや他人のお子さんを相手にするわけですから付き合い方、距離感は難しいとは思いますが、要は、地域でのつながりですから、大人は「近所のおじさん、お婆さん」、子どもは「近所の子」なので、あまり難しく考えなくてもいいんじゃないでしょうか？もっともあまりガンコだったり、ものわかりが悪すぎると子どもたちからは「(ウザイ)近所のジジイ、ババア」となってしまう人間関係がブチ壊れてしまうことでしょう。ご注意下さい。



Mick





まずは積極的に名前を呼んで声をかけてみてください。彼らが相談したいと思った時に話しやすい関係を作っておくといいですね。ただ、大人もJLの一部になってしまうと、自分たちで本当はできることを大人に頼み、やらなくなってしまうので注意が必要だと思います。



あおびよん



シュガー

もちろん上から目線ではダメだけど、ベツタリって感じも良くない。まあそこその感覚が大事なんだけど…。(近所のおじさん、おばさん以上、親以下って感じかな)

※大事なこと

JLからの話は、きちんと目を見て真剣に聞いてあげること。最近の大人(親や教師)は忙しいからまともに聞いてないってことを、子どもたちは知ってるよ。



だーさん



JL個人に対しては、人生のよき先輩としてのアドバイスをお願いします。また、JLC全体を組織として捉え、組織の中で個人の役割が果たされているか、組織として機能しているかななどをよく観察し、アドバイスしていただくと良いと思います。JL相互の関係や、大人との関係を俯瞰できるよう、気持ちのゆとりを持って接することで適度な距離感が得られるのではないのでしょうか。



JLCで活動することによって、自分らしさを見つけたり発揮したりできることが魅力なのではないでしょ

うか。学校以外の仲間と活動できることも魅力のひとつだと思います。

仲間と活動する楽しさはもちろんですが、行事の企画・運営による達成感や、それによって自分

が他人の役に立っていることを実感することは、この上ない喜びであり、活動の魅力でもあります。



中高生にとってJLCの魅力って何なの でしょうか？



季節毎に楽しいこと(キャンプやクリスマス会や餅

つきなど...)ができます。ひょっとして学校外の仲間や友達もできるんじゃない？もしかしたら今まで自分の気づかなかった部分で活躍できるかも。



なんといっても仲間ができることです。ただの遊び仲間と違って、目的を持って協力して活動

する中で信頼しあえる本当の仲間になることができます。また学校の部活動と違い、支援してくれる多数の大人と関わることで豊かな人間性が育まれます。

新しい自分・学校とは違う自分を発見できることだと思います。先生や親じゃない大人とつきあうことは結構楽しいのではないかと思います。



**仲間ができる
学校以外の居場所
いろいろな大人と知り合える**

学校の先生など子どもと関わっている大人はいつまでも若く元気です。JLC活動を支援することで、若者からたくさん「エキス」が得られるはずですよ！これってすごいことなんじゃないんでしょうか？(若い子と一緒にいられる、そんな境遇がうらやましいと思う人も多いはずです。)



大人にとってJLC活動を支援することの魅力って何なのでしょう？



若い人と関わることは、彼らに元気をもらえるという喜びがあります。何よりも楽しいですね。

そしてJLをサポートすることはJLを人として育てることになります。彼らはやがて地域を支える人材になるでしょう。つまり人づくりをすることでまちづくりをしていることになります。

元気になる
地域やまちづくりに貢献できる
次世代の育成に関われる
共に育つ

JLC活動を支援することはJLを育て、また次の世代を育てることにつながります。支援を続けることで、より広い視野を持って子どもたちと接することができるようになり、自らも共に育つ関係となることは大人にとっても魅力ではないでしょうか。(ダーさん)



職場や家庭とはまた違った人々と接することによって、

様々な価値観や考え方に触れ、自分自身の成長にもつながることと思います。若いJLと触れ合うことによって、パワーとエネルギーをもらえることにもなります。

また、「JL活動が活発な地域は、犯罪率が低い。」という全国的な統計データもあります。JLを支援し活発にすることによって、自分の子や孫、家族、そして自分自身がより暮らしやすい地域や家庭環境を育むことができるはずですよ。



JLとSLの関係がうまくいってません。
どのような支援が適切ですか？



基本的に、SLが先輩風を吹かしちゃうのが原因じゃないかなあ～。
一般的に大人＞SL＞JLっていう力関係があるわけだから、SLがJLと関わる場合には、半歩控えめになってアドバイスが良いんじゃない。やっちゃいけないことは、大人の意見をSLを通してJLに伝えることだよ。(シュガー)

SLがJLに対して厳しいということは、子どもたちに対するゲーム指導などについてはよく見られる現象だと思います。まずは萎縮してしまっているJLのモチベーションを回復できるように、よかった点を褒めてあげてフォローしてあげることでと思います。また、SLに対してはJLのモチベーションを下げってしまった現状を理解させ、そのようなモノの言い方はどうかな？と、JLたちにあった指導の仕方を考えるようにさせたらどうでしょうか？(Mick)

それぞれの組織の独自性を保ちながら、先輩・後輩のよい関係を築くためにはやはりコミュニケーションが必要です。行事等での役割分担もあるとは思いますが、合同の研修や意見交換をする場を設け、相互理解を深めることが解決につながると思います。(ダーさん)

JLが小グループ化してその関係がうまくいっていません。どうすればよいのでしょうか？



JL活動は何のため、誰のためにやっているのか考えさせてみるのも必要です。ワークショップ形式で、自分たちで考えを出させてまとめる方法もいでしょう。その中でクラブという組織で活動しているのだから、小さなグループで固まって他のメンバーと関わらなかつたり協力しないことが活動にどんな影響をもたらしているかをふりかえらせることが必要です。(プーさん)

役割分担をするときに違ったグループの子が混ざるように工夫します。違ったグループの子どもたちが協力して1つのことを成し遂げる体験をさせ仲間という意識を育てます。(まっしい)

グループ化の原因にもよりますが、意見の違いでできてしまったなら、どのグループも考えていることは間違っていないと思います。ただ主張している部分が違うだけではないでしょうか。それぞれのグループが考えていることを大人が聞いて、うまく他のグループに「みんな同じようなことを思っているんだよ」ということを伝えられるといいですね。(あおびょん)

場面や視点が変われば仲良くなれたり理解し合えたりすることって良くありますよね。活動の時のグループ分けをひと工夫してみましょう。無理矢理バラされたって感じにならないように、あみだくじにしてみるとか、いかがでしょうか？(まるちゃん)



新人JLがグループになじめません。
どう支援したらよいでしょうか？

新人を迎える前に、あらかじめ新人を担当する役を決めておくといいでしょう。必要なことを伝えたり、相談相手になる先輩が決まっていれば、新人にとって安心感があり、スムーズな関係づくりができると思います。(ダーさん)

集まったときに必ずアイスブレイキングを実施するといいいでしょう。まずはお互いの名前を覚えることから、話をしやすくします。また先輩に助言してできるだけ話しかけてあげるように示唆するなど必要でしょう。(プーさん)

※アイスブレイキングとは、行事や会議等で人が集まったときに、気分をほぐし気軽にコミュニケーションできる雰囲気作りをするレクゲーム等を使った活動のことを言う。



活発に活動しているJLの保護者から「活動をやめさせたい」と申し出がありました。活動の意義を理解してもらうよい方法がありますか？

保護者が不安を感じるのは「どんなメンバーと一緒にいるのか」「集まって何をしているのか」「活動中の安全はどのように確保されているのか」などといったことです。日常的にこれらの情報を保護者に伝える工夫も必要ですが、このように言われたらまずはやめさせたい理由を詳しく聞いたうえで対処しましょう。(ダーさん)

まずは、やめさせたい理由を聞いてみましょう。活動の意義を話すより、実際に活動しているところを見せてもらうのはどうでしょうか。そして、JLの活動は本人の気持ちがとても大事なことだと思います。

何よりも本人の気持ちを聞いてあげてください。(あおぴょん)



会議や行事のあと遅くまで遊んでいるみたいです。保護者から苦情が来ました。どうすればよいのでしょうか？

何事もはじめは大事ですからガツンという場面があっても良いと思います。帰宅時間の問題もそうですし、たまたまJLがよからぬことをしているという場面に出くわすこともあります。大人としてはやはり、単純に「いいことをしたら褒める、悪いことをしたら叱る」、それが正しいオヤジの生き様ではないでしょうか。(Mick)

子どもの夜遊び(?)は当然親としては心配だね。中学生のJLの場合には、活動の基本ルールを大人が本人に徹底させましょう。高校生のJLの場合には、話し合いなどで、より良い活動を自分たちで見つけさせましょう。(シュガー)

JLC全員でルールを確認しましょう。何のための活動なのか確認しましょう。またそういうことを続けていると保護者に活動をとめられてしまうこともあると伝えます。(プーさん)



活動がマンネリ化してきたときどういうアドバイスをすればよいでしょうか？

活動に参加しているJLや子どもたちがどう思っているか確認する必要があると思います。活動の参加者が異なるのであれば、ではどうするのが良いか考えさせてみたらどうでしょうか？こういった投げかけからJLの視野が広がったり、主体的な活動につながっていくと考えられます。(Mick)

同じメンバーで同じことを繰り返していれば、マンネリ化しがちです。そんな時には、活動に対して先入観のない新人のアイデアが役に立つ場合があります。新人が話しやすい環境づくりを心がけ、意見を取り入れてみましょう。(ダーさん)



その他の方法

ワークショップで活動の再確認をする。

行事の後にふりかえりを大切にする。

他地域のJLと交流する。いろいろな情報にふれる。

JLやSLに主体的に活動してもらうためには、大人はどんなことに気をつけなければならないのでしょうか？

「基本的には口出しはしない。とんでもないアイデアであっても、最初から否定的な言葉は使わない。」話は聞き、実現性について自分たちで考えさせ、実現できるような工夫を考えさせることが大切です。(プーさん)

大人は口を出さない、ただそれだけ。(どれだけガマンできるかだよね)あとは、主体的に活動したときに得るもの、例えば一体感とか達成感とか…の心地良さをJLに感じてもらう。この手のものはくせになりやすいからね。(シュガー)

大人がお膳立てしてJLをお手伝いとして使えば効率よくスムーズに行きますが、それではJLの成長は望めません。ここはぐっと我慢して、「お金は出すが口は出さない」の精神をお願いします。(まっしい)

行事や活動の企画・運営をJLに任せたいのですがどのようなことに気をつければよいでしょうか？

最も大切なのは、運営する側も参加する側も活動の安全が確保されているかということです。プログラムの内容や実施場所など、細かい点にも注意を払いましょう。(ダーさん)

まず、これまでにこれを・・・といったスケジュールを説明してあげましょう。使える場所や物品などを話し、後はJLたちに何ができるか、何をしたらいいのか考えてもらい、最初のスケジュールに合って進行しているか、進捗状況をこまめに確認してあげるようにしましょう。(あおびょん)

行事や活動の企画・運営をJLに任せたいという大人の思いはよくわかりますが、予算・会場・安全対策・広報・・・すべてをJLに任せるとするのは非現実的ですし無理があります。少なくとも行事を企画・運営するにはどのような段取りでどのようなことを検討しなければならないのか、そういったサンプルの資料等が用意されていなければなりません。JLに投げかけるだけでなく、どうしたらJLが実現できるか、という視点・方法論を大人が持つことが一番重要だと思います。(Mick)

JLがただの仲良しグループになってしまい、行事などでもJLだけでおしゃべりをしたり楽しんだりしてしまっているのが目につきます。どうすればよいでしょうか？

JLの活動中、目的を見失うと起こりがちな光景です。毎回、活動開始前に今日の行事の目的やJLの行動目標を確認したり、終了後の反省会の実施を心がけると良いでしょう。(ダーさん)

JLの第一段階の仲間づくりができているとすれば、苦労して流す汗の爽快感を感じてもらえれば、具体的な目的を設定して活動するなんて楽ちんだと思うよ。(シュガー)



JLC活動がみんなの居場所になっているなら、それもいって気がします。どうしても気になるなら、大人が率先してJLの中に入っていき、新しいことにチャレンジさせるなんてのはどうですか！(まるちゃん)

ゲーム指導やキャンプファイヤーなどのスキルをJLが身につけるにはどうすればよいでしょうか？

参加して吸収することが一番早いと思います！ただ参加しただけだと「その場ではできても、人前でできない」といったパターンになりやすいので、身につけたことを人前でやる機会をできるだけ多く設定してあげたいですね。JL内の研修・子ども会・福祉施設などたくさんの方がいると思います。

(あおぴょん)

JLのリードするゲームは、JLの間だけが盛り上がり、周囲がついて行かれない、独りよがりになりがちです。誰の、何のためにゲームやファイヤーを行うのか、目的意識を確認した上でゲームの進行などを考えることが大切です。(ダーさん)



JLの研修会を計画したいのですが、適切な講師が身近にはいません。どうしたらよいでしょうか？またJLに役立つような研修会などはありますか？

行政(県・市町村)の担当者に頼ってみる。だけど、JLって別にゲーム指導やキャンプばかりやってるわけじゃないから、もう一度身近なところからあたってみたら？例えば、野外炊事の研修の前段として、普通の料理研修だって有りんじゃない？って感じ。(シュガー)

青少年関係の行政機関へご相談下さい。市町村の青少年主管課・県立青少年センター(045-263-4466)でもご相談のりります。県立青少年センター・県立清川青少年の家(046-288-2319)ではJL向けの研修も行っております。(まっし)

目的・テーマ・予算・日時をはっきりさせて、相談するとベスト！



会員数が減少しています。効果的な勧誘やPRの方法を教えてください。

JL間の口コミや目立つ色のポスターやチラシを作製してみたらどうでしょうか。広報誌なども有効な媒体だと思います。(あおぴよん)

効果的かどうかはわからないけど、結局口コミが一番じゃないかな。(^^;) (シュガー)

まず楽しいクラブにしましょう。皆が何でも発言できる雰囲気・環境づくりも大切です。先輩から後輩にトップダウン的に活動を進めていけば、おもしろくなります。また入会後にやめてしまう原因はクラブ内の自分の役割がわからなかったり、何のためにやっているかわからないからです。役割を明確にし、アイデアを出してもらうようにして自分がクラブに必要な存在であることを意識できるようにします。(プーさん)



新人JLを確保するためにも地域にJLCの活動を知らせたいが、そのよいアイデアはありますか？

行事などに参加し、JLが活動する姿を見てもらうことが一番の近道だと思います。JLが主体的に行事を運営できるよう支援してあげてください。(ダーさん)

HP・広報・自治会への回覧・子ども会へのチラシ配布など多くの人の目に触れることが最初にできることだと思います。文字で知らせるよりも、JLたちが活動している場面がたくさん見られて、そこから知ってもらえるといいですよ。(あおぴよん)

JL活動に参加する子が限られてしまい、一部の子に負担がかかっています。より多くの子が参加できるようにするにはどうしたらよいでしょうか？



JL間での声かけが大切だと思います。「行きたいなあ・・・でもなあ・・・」と思っている子も中にはいるので、そこで他のJLから声がかかると背中を押してもらえるので、参加者は増えると思います。やはりJL間の口コミがとても大事だと思います。(あおびよん)

会議は忙しい子の予定を優先して組む、準備等は数回に分けて都合の良いところに出るなど、より参加できる方策を考えてください。仲間同士の信頼関係がないと負担のかかっている子から不満がでることも多々あります。「がんばってるね。」「がんばれ！ではありません。）」とまめに声をかけてやってください。(まっしい)

